

いのちの言の葉

「生命誕生とかけがえのないいのち」

魚津市立上野方小学校 対象：第5学年児童

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成20年10月30日実施

「誕生日は家族に感謝する日」

いのちの誕生の仕組みや助産師としての体験を通して実感されたいのちのかけがえのなさについて水井先生にお話ししていただくとともに、実際に赤ちゃんや妊婦さんとの交流も行いました。

水井 雅子先生のプロフィール

助産師・国際認定ラクテーション・コンサルタント 富山県在住

・2000年国際認定ラクテーション・コンサルタント取得

・地域の中での「母乳育児推進」と「育児支援としての母乳育児支援」の普及活動を展開中

私が特に心に残った話は、妊婦さんが言った「おなかの赤ちゃんがお腹をけったりすると、早く赤ちゃんの顔が見たくなる」という話でした。それを聞いて、私がお母さんのお腹の中で足を動かした時、お母さんもあの妊婦さんと同じようなことを思っていたんだと思うと、生まれてくることができてよかったなあと思いました。いつか私も赤ちゃんを産む時が来たら、赤ちゃんの顔が早く見たくなるのかと思うととてもドキドキします。



【内容】

「いのちの先生」のお話

- ・ 助産師としての体験を通して
- ・ いのちの誕生の仕組みをパネル等で知る。
赤ちゃんとお母さん、妊婦さんとの交流タイム
- ・ 赤ちゃん誕生までの苦労や喜び、配慮などの体験を聞く。
- ・ 母親としての日々の生活の話から、大切に守り育てられていることを知る。
- ・ ドップラーで妊娠10ヶ月の妊婦さんの体内にいる胎児の心音を聞かせてもらい、自分の心音の速さとの違いを感じながら、母体内でいのちが育っていることに気づく。
- ・ 赤ちゃんを抱くときの注意を聞き、抱っこ、あやすなど実際に赤ちゃんに触れ合う。また、妊婦さんのお腹に手を当て、母体内の赤ちゃんの動きなどから赤ちゃんの発育に関心をもつ。

「いのちの先生」のお話

- ・ 誕生日は家族に感謝する日であることを理解する。



今日、いのちの大切さについて水井先生がお話ししていただきました。最初に小さな穴のあいた色紙と大豆をくださいました。初めは「何かな？」と思っていたけど、色紙の穴は私たちのいのちが誕生したとき、大豆はいのちの誕生から40日の時の大きさでした。とても信じられないぐらいでした。私たちも最初は、こんなに小さかったんだと驚きました。